



学校自己評価の結果について

学校では「保護者アンケート（保護者によるもの）」「学校自己評価（職員によるもの）」「学校関係者評価（学校運営協議会によるもの）」という3つの視点から、学校経営を多くの人の目で見てもらって幅広くご意見をいただき、次年度の学校経営に生かしています。保護者アンケートの結果は先日配布させていただきました。今回は学校自己評価（職員によるもの）の結果について報告させていただきます。

学校自己評価は、学校の全ての教育活動について職員が学校全体としてしっかりと行えているか改善した方がよいかを評価するものです。来年度に向けて改善するところを見つけ、軌道修正する機会としています。全体では33項目の平均が4段階評価で3.4という結果でした。

【自己評価のポイントが高かった項目】

- ・＜家庭連携＞ 保護者との連携を図り、開かれた学校づくりを進めているか。(3.6)
- ・＜教育相談＞ 子どもとのふれあいを大切にし、教育相談等で児童生徒理解に努めているか。(3.6)
- ・＜道德教育＞ 豊かな人間性や心を育てる道德の指導をしているか。(3.6)
- ・＜学習指導＞ 一人一人に応じたわかりやすい授業をしているか。(3.5)
- ・＜生徒指導＞ 問題行動の予防と早期発見、早期対応に努めているか。(3.5)

【自己評価のポイントが低かった項目】

- ・＜生徒指導＞ 基本的な生活習慣や規範意識の向上をはかるように指導しているか。(2.9)
- ・＜情報指導＞ コンピュータの活用能力を高め、情報モラルの指導に取り組んでいるか。(3.0)
- ・＜特別活動＞ 学級活動、児童生徒会活動、学校行事で、子どもが生き生きと活動できるよう工夫しているか。(3.1)
- ・＜学習指導＞ 基礎学力を身につける工夫をしているか。(3.2)

自己評価のポイントが最も高かった＜道德教育＞では、人権月間を設定し「いじめについて考える」全校道德や「HAPPY TREE 良いところ見つけ」の取組を今年度実施し、自分や友達の良さを再認識するように全校体制で道德教育を実践したことから、高い評価となりました。年間35時間の道德科の授業を毎時間大切にするように心掛け、授業力をつけるために自主的に研修を深める職員もいます。考え、議論する道德科授業の実施により、児童も道德の授業を楽しみにする姿が見られるようになりました。＜学習指導＞では、昨年度少人数指導担当者が配置されなかったことから実施できなかった、高学年算数科における少人数指導を復活させました。クラスを2つに分けて授業を行うことで、きめ細かな指導、わかる授業を展開できるようになりました。来年度も引き続き少人数指導を実施し、一人一人に応じたわかりやすい授業づくりに努めていきます。

自己評価のポイントが最も低かった項目は＜生徒指導＞でした。基本的な生活習慣の中でも、今年度はあいさつの指導に力を入れてきた結果、あいさつ運動の輪が広がりました。一方で、時間を守る、無言集合等のマナーの指導では、残念ながらよりよい態度の定着はまだまだと言えます。道德科の授業を上手に生かしながら、マナーはなぜ必要なのか等を児童に考えさせ、行動に移せる児童を育てていきます。＜情報指導＞は、昨年度と同様今年度も低い結果となり、本校職員の苦手な分野と言えます。今年度は夏休み中に教員研修を実施し、職員のスキルアップに努めました。ただ、情報モラルの指導は十分だったといえません。デジタル・シティズンシップ教育の年間計画を確実に実践するように、強調週間を設ける等工夫して行います。

来年度も全教職員で子どもたちの笑顔のために教育活動を進めてまいりますので、保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。